# 手話言語の普及における課題

気仙沼高校・2年4組10番

## 目的・背景

●手話の必要性を明らかにし、手話を広める。

●手話を使える人が少なく、困っている人がいる。

●コロナ渦でマスク着用により、表情が見にくくなっている。

## まとめ

●手話を身につけたいと思っている人は気仙沼高校生だけで半数以上いる。

●表情・情報が分からないため不安になる。
→筆談での対応。

●宮城県ではろう者が暮らしやすい社会へと働きかけている。

## 調査方法

Ⅰ. 気仙沼高校生へのアンケート

Ⅱ. インターネット調査

Ⅲ. 宮城県の条例

## 今後の展望

●ろう者や手話について学ぶ講習会、イベントの企画
→手話の定着をする

●SNSの情報発信などで宮城県の条例の認知度を上げる

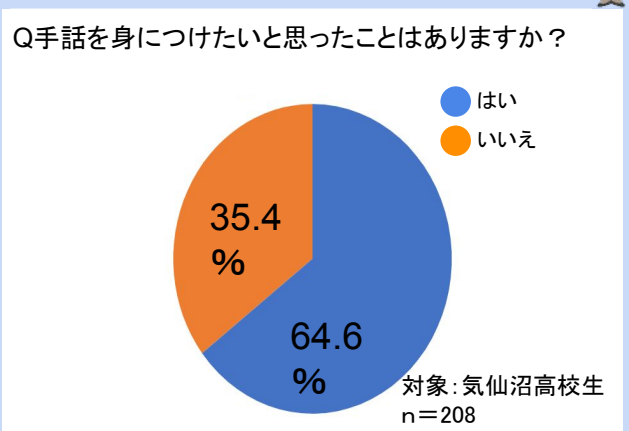
●マスク生活でろう者がくらしやすい工夫を調べる

## 調査結果

Ⅰ. はい→64.6%
いいえ→35.4%
（右図）

Ⅱ. マスクで口元がみえない。
表情が見えない、情報が入ってこないため不安になる。
（例：公共交通機関、災害時）
（手話通訳員I様からの聞き取り）

Ⅲ. 手話を言語として認識。
手話を学ぶ機会の確保。




## 参考文献

手話言語条例（https://www.pref.miyagi.jp/documents/7253/847374.pdf ）
これだけは知ってほしい！聴覚障害のある人たちの悩み
（https://www.nhk.or.jp/heart-net/artcle/46/ ）
手話通訳員I様への聞き取り調査